

清川歴史公園かわら版

第2回「清川歴史公園・歴史講座 in 清川」開催

次回 11月16日開催「庄内藩江戸市中取締について」



八月二十四日(水)、清川歴史公園に清河八郎研究会会長の小野寺雅昭氏を講師にお招きして、歴史講座「清川「酒井家庄内入部400年」を開催しました。

第二回の講座は「青少年期の清河八郎と庄内藩」と題して講演、古文書や数々のエピソードを交えながら、わかりやすく解説いただきました。

また講演の前には、きよかわ観光ガイドの会による「まち歩き」を実施。清川関所から御殿林を抜けて、清河神社や清河八郎記念館などに参加者をご案内しました。



第三回歴史講座は十一月十六日(水)に開催。鶴岡市郷土資料館・今野章氏に「庄内藩江戸市中取締について」と題して講演していただきます。

- 発行所
- 清川歴史公園
管理運営委員会
- 清河八郎
大河ドラマ
誘致協議会
- 連絡先
庄内町
立川総合支所

清川歴史公園管理運営委員会では、食堂・売店・ガイドなどにご協力いただける方、一緒に地域を盛り上げていただける方を募集しています。管理運営委員会、または役場立川総合支所立川地域振興係までお気軽にお声がけください。



酒井家庄内入部400年

内容は次の通りです。

- ・参加費 2,000円
- ・昼食(温かい肉そば)
- ・お土産付
- ・お昼 12時受付開始
(午後二時半終了予定)
- ・定員 20名

参加ご希望の方は、清川関所【電話：0234・25・5885】(定休日：毎週月曜日)へお電話にてご予約下さい。定員になり次第、受付終了します。

紙芝居コーナー(清河八郎) 幕末の志士 ①



清河八郎

清河八郎は、私達の町「清川」に天保元年(一八三〇年)に生まれました。その頃の日本は、天保の大飢饉の時代で、たくさんの人々が飢え死にしたり、農民一揆が起っていました。目を海外に向ければ、中国がアヘン戦争で日本近海に外国の軍艦が押し寄せて来ている時代でした。

(次ページへつづく)

企画展示部会より

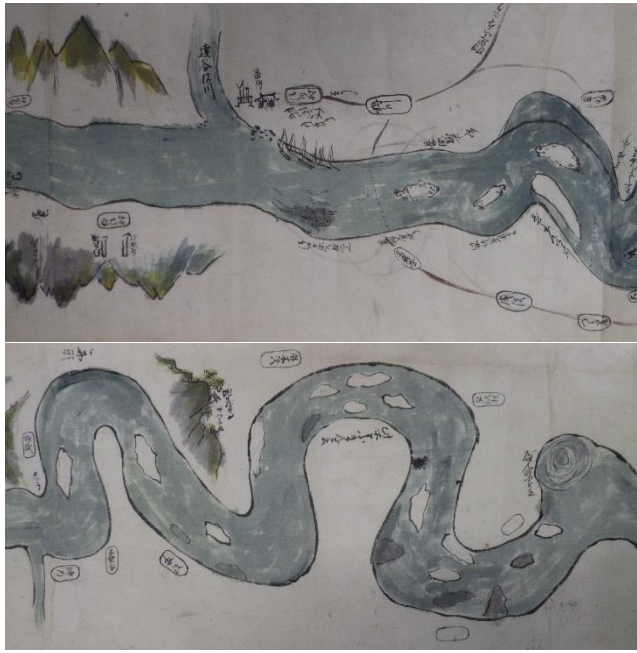
酒井家庄内入部四〇〇年記念展示連携事業

荘内藩の参勤交代

展示資料をご紹介します

企画展「酒井家庄内入部四〇〇年企画展示連携事業「荘内藩の参勤交代」では、資料館などからお借りした貴重な資料の画像をパネルにして皆さまにご覧いただきます。

今回はその中のひとつ、最上川通舟案内書(大石田町立歴史民俗資料館所蔵)をご紹介します。



須川の船町(山形市)から酒田湊まで、最上川沿いの集落や寺社・航行する際の難所などが描かれており、川船交通の案内図として天保七(1836)年に作成されたようです。今回の企画展では、大石田から清川付近までの箇所をパネル化・展示しております。当時の最上川沿岸の様子をじっくりご覧ください。

八月十八日・十九日

【御諸皇子神社例大祭】

(清川まつり・獅子神楽)

八月十八日(木)午前八時から御諸皇子神社の例大祭が規模を縮小して執り行われました。

なお同じ日の午後から予定されていた「清川まつり」は悪天候の為、残念ながら中止となりました。



翌十九日には、清川獅子神楽保存会の皆さんが町内を回って、獅子神楽を披露されました。



紙芝居コーナー(清河八郎)

清河八郎の誕生

②



天保元年(一八三〇年)一〇月一日、父豪寿、母亀代の間に造り酒屋の長男として生まれました。その日は、冷たい雨が激しく降り、稲妻が光り、地を震わす日でした。それよりも大きな産声を上げて八郎は誕生しました。その知らせを聞いた祖父昌義は、清川から鶴岡の亀代の実家まで早籠で行きました。産湯につかっている子を見ると、ちいちゃな手をぎゅつと力強くにぎり、雷の音より大きい声で泣く姿を見て、祖父は「これは大物になるぞ。」と目を細め、よい名前をつけてやろうと、自分の幼名の「元治」と同じ「元司」と名を付けたといいます。(次ページへつづく)

7月29日から31日まで サマーナイト清川関所開催

七月二十九日(金)から三十一日(日)の三日間、清川関所・川口番所と船見番所を使って「サマーナイト清川関所」を開催いたしました。



昼間とは違い、灯台のような雰囲気、船見番所から最上川や関所周辺をご見学いただきました。

この期間は午後八時まで開館時間を延長、館内をご見学いただきながら、角蔵珈琲さんからご提供いただいた、清川珈琲やホットサンド、アフオガードなどお召し上がりいただきました。
また日替わりイベントとして、珈琲淹れ方講座や10分間クイックマッサージ、クレイパック講座も開催しました。来館者には昼間とは違った雰囲気を楽しんでいただくことができました。

次回は「オータムナイト清川関所」と題して、十一月二十五日(金)から二十七日(日)まで開催を予定しております。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



紙芝居コーナー(清河八郎)
預かり米事件 ③



八郎四歳の時、この年は春先から天候が悪く、日照りが続いたかと思えば大雨が降り、大地震まで起こる始末でした。村では食べる物もなく、十一月下旬、十六人の義賊が庄内藩の藩米十一俵を齋藤家の蔵の中から奪いました。八郎は、その様子を酒釜の後で義賊の声や体格をよく見ていたのです。もし義賊をとらえないと一家は追放、当主は斬首獄門の刑にされてしまいます。しかし八郎の話により十六人の義賊と十一俵の米もそのままの状態で見つかりました。昌義は八郎の賢さに驚いたといわれています。その後、十五人は処刑されてしまいました。

(次ページへつづく)

地域おこし協力隊と「戊辰戦争 清川口の戦い」を歩く

九月十六日(金)に清川在住地域おこし協力隊とまち歩き「戊辰戦争 清川口の戦いを歩く」が開催されました。

秋晴れの下、町内の他、鶴岡や酒田から七名にご参加いただきました。参加者は地域おこし協力隊・玉越隊員やきよかわ観光ガイドの会の齋藤会長の案内で、清川関所を起点に御殿林や官軍墳墓・北楯大堰・歓喜寺・清河八郎記念館などをめぐりました。



戊辰戦争の戦死者の墓がある歓喜寺



また、まち歩きの後には、清川の銘菓「バナナポート」とアイスコーヒーを清川関所の館内で提供しました。



十一月六日(日)
清川関所 関所まつり【開催

十一月六日(日)に「関所まつり」を開催します。

会場「清川歴史公園・清川関所」と「清河八郎記念館」

・時間 午前十時から午後四時迄。主な催しは次の通りです。

【清川関所】

・「新そばまつり」(午前十一時から午後二時まで)「御食事処 御殿茶屋」の新そばセットの他、東風そば等販売。

・抹茶コーナー(午後二時半〜、午後三時十五分〜・各回定員12名 事前申込要)

【清河八郎記念館】

・「幕末の志士・清河八郎を学ぼう&紙甲冑着付け体験」(午前十時半〜、午前十一時半〜各回10名 事前申込要)

この他、清河八郎大河ドラマ誘致協議会コーナーや観光ガイドコーナー(関所周辺の寺社・御殿林など観光案内)もあります。お問合せ・お申込は清川関所(電話:0234・25・5885・月曜定休)まで。

紙芝居コーナー(清河八郎)

「井戸の中の蛙」④



「このろくでなし出て行け！」鶴岡の清水先生の大目玉が落ちたのは八郎十三歳の時でした。七歳で「論語」を父に学び、三年前から鶴岡の母の実家で二つの塾で学びましたが塾では学ぶことがなく、つい悪ふざけをするので塾をやめさせられました。その後は酒田に通い剣を学びました。十五歳の正月に家系図を見た八郎は「男と生れて平凡に過ごすのでなく、名を天下に上げ我が家名を後世に：そのために江戸に出て学問に励もう。」と発奮しました。やがて八郎に運命的な出会いがあったのです。藤本鉄石との出会いでした。鉄石は一か月余り齋藤家の楽水楼に泊まっていた。その間、書画・文学の話、イギリスと中国のアヘン戦争後オランダ・イギリスが日本を狙っていることなど教えられ八郎はおのずかと体が震えてくるのを感じたのでした。(次号へつづく)